

1 目指す学校像

多部制単位制高校のシステムを活用して、多くの生徒に門戸を開き、多様な生徒のニーズに応える柔軟な学びのシステムをもつ学校となる。

2 本年度の教育目標

- (1) 基礎学力の定着と学力の向上
- (2) キャリア教育の実践と進路保障
- (3) 基本的な生活習慣の定着
- (4) 豊かな心をはくくむ教育の推進
- (5) 保護者や地域と連携した開かれた学校づくりの推進
- (6) 教育環境の整備

3 評 価

( 1 - 1 )

項 目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自 己 評 価	外 部 評 価	今後の課題
教育課程・学習指導	単位制高校としての特性を生かした教育課程の在り方を検討する必要がある。	少人数講座やＴＴ学習等の充実により、生徒一人ひとりの学力を向上させる。	単位制の特性を生かした講座の充実 教育課程検討委員会の開催 教科会・学年会等での検討	少人数講座は一定確保できたが、生徒の学力向上や希望進路の達成のための手立てがまだ弱い。新学習指導要領への円滑な移行も視野に、教育課程を検討する必要がある。	B	新学習指導要領への円滑な移行を含めて、本校の生徒の実態を踏まえた単位制教育の在り方を、教育課程検討委員会で検討する。
	学力向上を目指した取組を充実させる必要がある。	「生徒がわかる授業」を展開するため、授業評価や公開授業等により授業を改善する。	「授業を大切にすること」を学校目標として、授業改善、授業規律の確立への取組 全教員が年間1回以上の授業公開及び授業評価を実施	校内研修や公開授業等の取組により、授業力向上については共通理解をもつことができた。今後は、生徒の実態を踏まえた「わかる授業」につなげる方策が必要である。	C	家庭学習を習慣化させる宿題システム、義務教育段階からの基礎を充実させる「つなぎ教材」などを活用して、基礎学力の定着化を図る。
	学習規律の確立のため、教員・生徒が取り組む必要がある。	基本的な学習規律を身に付け、毎時間の授業を大切にすること。	年度当初のオリエンテーションで、生徒・教員とも「授業を大切にすること」を意識できた。しかしながら、実態としてエスケープ行為もあり、さらなる徹底が必要である。	年度当初のオリエンテーションで、生徒・教員とも「授業を大切にすること」を意識できた。しかしながら、実態としてエスケープ行為もあり、さらなる徹底が必要である。	C	次年度も「授業を大切にすること」を学校全体の年度目標として、学習規律の確立、授業改善に取り組む。
	「生徒の可能性を見つけてほめる」ことを意識した教育実践を目指す必要がある。	生徒の学習意欲を喚起するため、教育環境の整備、ほめる教育に取り組む。	教室環境の整備 全校集会の開催(月1回) 各種表彰制度の整備	夏場の暑さ対策のための扇風機の備え付け、全校集会の定期的な実施、皆勤・精勤賞の制定などにより、生徒の健康管理や顕彰する体制を整備することができた。	B	校内の危険箇所の発見・改修に努め、生徒の安全・安心を確保する。また、ほめる教育では資格取得者のパネルを設置して、顕彰する。
進路指導	黒潮町や高知大学との連携を深め、「総合的な学習の時間」のプログラム開発と実践を一層推進する。	「総合的な学習の時間」の活動等により、問題解決能力を育成する。	自律創造型地域課題解決学習の充実 プレゼンフェスタ等への参加	グループによっては教員の支援が多くなった場面もあったが、企業・大学等の熱心な働きかけもあり、各学年で所期の目的を達成できた。	B	「総合的な学習の時間」は各学年団と、大学・地域との連携が、よりスムーズになるよう、担当者等の役割分担を明確にする。
	計画性を持ったキャリア教育を構築する必要がある。	キャリア教育に組織的・体系的に取り組むことにより、進路意識の高揚を図る。	キャリア教育をテーマとしたソビア塾の実施(夜間部・通信制も同様) 進路検討会の実施 インターンシップの実施 進路カルテ、キャリアデザインノートの活用	ソビア塾の開催(年3回)、進路カルテの活用、進路検討会、個別面談、大学等訪問、職場見学、インターンシップの実施、キャリアデザインノートの作成など、予定していた取組を実施できた。本校生徒の実態に即したキャリア教育の組織化・体系化は、依然として課題である。	B	5年目を迎えた自律創造型地域課題解決学習は、取組内容が毎年進化し、生徒・教員とも力量が向上している。また、この取組を支える地域との関わりも良好である。資格取得は三課程とも、よく頑張つて実績を残しており、多部制単位制の本校ならではの教育システムが生かされている。
	日商簿記や漢字・英語検定等の資格取得を推進する。進路の指導体制や方法の充実も目指す。	模擬試験、資格取得検定に積極的に参加させ、実力アップを図る。	資格検定や競技大会への生徒の積極的な参加を促進 計画的な補習・添削指導の実施	資格取得は三課程とも実数を伸ばすことができた。また、模擬試験は、生徒への呼びかけを意図的に行った結果、参加する生徒が増加した。	B	組織的・体系的なキャリア教育の充実に向けて、今後一層取組み、進路達成率を向上させていくことが望まれる。
	進路実現にむけた生徒・保護者との面談を複数回実施するなど、学校側との共通理解を図る必要がある。	進学指導では個別指導を強化し、就職指導では面接などのスキルアップを図ることにより、進路達成率を向上させる。	ホーム主任、進路指導担当の個別面談や面接指導の実施 スキルアップ講習会、職業講話等の開催	進路指導担当の個別面談を昨年の倍実施して、生徒の進路希望の把握等につなげることができた。今後は、ホーム主任と進路指導部との連携を強化する手立てが必要である。	B	補修・添削、資格取得の指導体制を強化して、生徒の進路達成を促進する。
生徒指導	ホームデーやエコ活動、ケースメソッド学習を計画し、生徒の自主的な活動を支援していく必要がある。	部活動や生徒会活動、ボランティア等に取り組む、生徒の自主性を育成する。	生徒会を主体とした学校行事の実施 地元のイベント等の参加協力	生徒会が主体となって、様々な学校行事に取り組むことができた。また、月間目標を設定し、校内の清掃活動・あいさつ運動などを実施することができた。	B	今年度に引き続き、あいさつ運動や月間目標の定着化に向けて、生徒会活動を活性化していく。
	教育相談体制の確立と教職員のスキルアップを目指し、多様な生徒に対応できる教育環境づくりを図る。	生徒一人ひとりの自己有用感を高めるとともに、豊かな心と健やかな体づくりを支援する。	保健室や教育相談室の活用 の工夫 校内研修の実施 校内支援委員会の開催 生活実態アンケートの実施 「ここからノート」の活用 スクールカウンセラーや外部機関との連携の促進	保健室や教育相談室は、生徒の対応等必要な場面で活用できた。今後は、予防的な取組・活用方法を検討していく必要がある。	C	こころと体サポート部を2F職員室から、1Fカウンセリング室へ移し、保健室やスクールカウンセラーとの連携を密にする。
	校内支援委員会の活動を充実させるとともに、教職員がカウンセリングマインドを醸成する。	生徒理解を深め、生徒の発する心のサインを見逃さず、早期に、適切に対応する生徒支援システムを構築するなど、カウンセリング機能の充実を図る。	スクールカウンセラーや外部機関との連携は、必要な場面で活用できたものの、生徒支援のシステム化までには至らず、次年度に向けて組織体制の見直しが必要である。	スクールカウンセラーや外部機関との連携は、必要な場面で活用できたものの、生徒支援のシステム化までには至らず、次年度に向けて組織体制の見直しが必要である。	C	校内支援委員会を外部機関(高知県心の教育センター、黒潮若者サポートステーション等)と連携して、月例会を開催するなど、生徒支援体制を確立する。
	校内研修の内容も吟味しながら、研修を定期的に開催し、教職員のスキルアップを目指す。	校内研修を充実させるとともに、教職員のカウンセリングマインドを養成する。	定期的な研修の機会をもち、教職員個々の意識の向上につなげることができた。	定期的に研修の機会をもち、教職員個々の意識の向上につなげることができた。	B	外部機関と連携しながら、校内研修の内容に創意工夫を加える。
保護者・地域住民等との連携	学校だよりやHPの充実を図る。機会をとらえた大方高校の教育活動のPRにも努める。	学校評価の結果公表、学校情報の発信等として、開かれた学校づくりを推進する。	学校だよりの発行 ホームページの恒常的な充実・更新	三課程とも定期的な学校だよりを発行して、学校の取組など情報発信を行った。ホームページは恒常的に更新するとともに、保護者あての文書も随時掲載した。	B	近隣の保育園、小・中学校並びに地域住民に対する広報を、外部掲示板を設置するなどして充実させる。
	P T A活動や学校運営協議会の活動を推進していくとともに、地域連携の活動に広がりをもたせる。	P T A活動、学校運営協議会等に取り組む、学校経営参画システムを確立する。	愛校作業、研修旅行の実施 学校運営協議会の開催(年4回) 講演会等への保護者参加の促進	愛校作業、研修旅行、講演会等の予定していた取組を実施することができた。P T A総会の出席者が少なく、今後、総会の内容等を改善する必要がある。	C	P T A総会への出席者が極端に少ないので、総会の持ち方・内容に工夫を加えて、保護者の学校への関心度を増してほしい。近隣の小・中学校、地域の方々に対して、外部掲示板の設置、黒潮町のケーブルTVなどを活用して、積極的な情報発信を心がけてほしい。
	生徒会や学年の活動として、ボランティア活動等を実施するとともに、地域人材を生かした教育活動を企画・実践する。	地域の人材活用、地域行事への参画を積極的に進める。	「総合的な学習の時間」や教科指導での地域人材の活用 地元施設でのボランティア活動	「総合的な学習の時間」の取組では、企業の方々がとても熱心で、授業中や休みの日など年間を通じて生徒に関わってくれたり、生徒にとって、地域を知ることや大人と関わる機会となった。	B	「総合的な学習の時間」の2年次生の取組において、校内アイディア発表会を年内に実施するなど、学校行事や外部発表会とのつながりを改善する。
	開放講座をより充実させ、地域の生涯学習に対するニーズに応えていく必要がある。	聴講生制度、魅力ある生涯学習講座の開設等、地域の生涯学習の拠点として取り組む。	年間を通して開放講座の開設 開放講座の内容等の改善	開放講座には熱心に地域の方々に参加していただいた。講座内容や募集については、次年度に向けて改善することが必要である。	B	三課程のそれぞれの講座については、内容を充実させ、より地域に学校を開いていく。また、募集方法についても、23年度から改善する。